

投資家向け説明会

2021年6月

日産車体株式会社

【1. ご挨拶】

それでは、目的事項であります、報告事項1、第98期、すなわち、2020年4月1日から、2021年3月31日までの、事業報告の内容、連結計算書類の内容、続いて、報告事項2、第98期計算書類の内容につきまして、ご報告を申し上げます。

【2. 企業集団の現況】

まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過、及び、その成果につきまして、ご説明を申し上げます。

当連結会計年度の経済環境は、新型コロナウイルス感染症の、世界的な急拡大の影響による未曾有の一年となりました。第1四半期は、個人消費や企業活動が、著しく制限され、景気が大きく下振れるスタートとなりました。

第2四半期以降は、世界各国での経済活動の再開と改善による輸出の増加を受け、景気は緩やかな回復基調に転じ、持ち直す動きが続きました。

当社グループの属する国内の自動車生産事業につきましても、第1四半期を底として、国内外における新車需要が持ち直しましたが、感染症のまん延による、消費マインドの低下や、世界的な半導体不足による、生産活動の停滞が懸念されるなど、取り巻く経営環境は極めて厳しく、不確実性の高い状況が続くと考えております。

【売上高】

このような経済情勢の下、当社が、日産自動車株式会社から受注しております自動車は、緩やかな生産回復基調にあるものの、年度前半での大幅な減産が響き、前連結会計年度と比べ、売上台数は26.3%減少の13万4千410台、売上高は27.3%減少の3千628億円となりました。

【損益】

次に、損益面でございますが、営業損益は売上台数、モデルミックスの悪化による、粗利益の大幅な減少などにより、前連結会計年度と比べ、88億円減少の4億円、経常損益は78億円減少の19億円となりました。

また、親会社株主に帰属する、当期純利益は、保有不動産の売却によって、特別利益が増加したものの、固定資産の減損損失の計上などによって、特別損失が増加したことなどにより、前連結会計年度と比べ、39億円減少の19億円となりました。

【資金調達】

次に、当連結会計年度は、特記すべき資金調達は実施しておりません。

【設備投資】

続きまして、当連結会計年度の、設備投資の状況につきまして、ご報告致します。当連結会計年度の設備投資の総額は約68億円で、新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。

【連結計算書類】

【連結貸借対照表】

次に、連結計算書類でございますが、まず、2021年3月31日現在の、連結貸借対照表の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。

資産の部合計は、2千610億円となりました。

その内訳は、流動資産が、2千108億円、固定資産が、502億円で、37億円の減少となりました。

一方、負債の部合計は、858億円となりました。

その内訳は、流動負債が、793億円、固定負債が、65億円で、前期末に比べ、101億円の減少となりました。

また、純資産の部合計は、1千751億円となりました。

その内訳は、株主資本が1千713億円、その他の包括利益累計額が、38億円で、前期末に比べ、64億円の増加となりました。

【連結損益計算書】

次に、第98期の、連結損益計算書の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。

先ほど申し上げました、当社と、連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、19億円となりました。

また、特別利益は、固定資産売却益等、17億円、特別損失は、固定資産除却損等、14億円を計上し、この結果、法人税等を差し引いた、親会社株主に帰属する、当期純利益は、19億円となりました。

【3. 対処すべき課題】

続きまして、「対処すべき課題」のご報告をさせていただきます。

【2020年度振り返り】

まず、2020年度の生産台数の実績です。

2019年度の18万2千台、2018年度の23万台に対し、中東向けの減産や新型コロナウイルスによる影響等で大きく下回り、13万4千台となりました。

次に、2017年に発覚した完成検査の不適切な取扱いの問題についてです。再発防止策は全て実行フェーズへの移行が完了し、昨年度は、この問題を風化させないために、コンプライアンスデーを開催致しました。今年度以降も、生産ラインをストップして全員参加で実施してまいります。

昨年度の実績と致しまして、JDパワー社による品質調査で、北米向けアルマーダがラージSUVセグメントにおいて、初期品質、商品魅力度共に一位を獲得致しました。当社の品質改善活動が着実に実を結び、社外からも評価されました。

【新型車】

続いて、昨年度、発表発売致しました主な新型車についてご紹介致します。

エルグランドは、グリル変更をはじめとする外観変更に加え、最新の各種安全装備を追加致しました。

キャラバンには、プライベートユースをコンセプトにした特別仕様車「ブラックギヤ」を追加致しました。上級グレードである「プレミアムGX」をベースに、各所にオレンジのアクセントを施しました。キャンプや釣り、自転車など、こだわりの趣味をもつお客さまに向けて遊び心のある仕様を取り入れました。

昨年度、品質調査でトップを受賞した北米向けアルマーダは、21モデルイヤーとして生まれ変わり、さらに魅力を増しました。外観変更に加え、最新のITナビゲーションを採用、画面を大型化致しました。さらに、この車から新しい日産を象徴する新NISSANロゴを採用致しました。

最後に、昨年度末、中東向けの新型パトロールニスモを発表致しました。GT-Rと同じプロセスで製造される専用の匠エンジンに加え、存在感を増したデザインが好評を頂いております。

【「プラチナくるみん」企業に認定】

続いて、昨年度は、ダイバーシティ促進の取り組みの結果、子育てと仕事の両立を支援する活動が厚生労働大臣に認められ、最高認定である「プラチナくるみん」を獲得致しました。着実に働きやすい環境が整ってきております。

【日産車体コーポレートレポートパーパスを策定】

次に、昨年度、日産車体のコーポレートパーパスを策定致しました。背景として、近年、環境対応や社会貢献などを、継続して実現していくことが企業に求められており、会社の存在意義であるコーポレートパーパスの重要性がより一層増してきました。

このような背景から、当社は、従来のビジョンである「人々の生活を豊かに。」に、新しい価値を創り続けることを意味する、「イノベーションをドライブし続ける。」を追加し、日

産車体のコーポレートパーパス（存在意義）と致しました。

また併せて、ミッションに、日産車体らしさを表す「独自性に溢れ」を加えました。さらに、日産車体が過去から将来に受け継ぐべきDNAを、「他のやらぬことを、やる”・情熱的・革新的・挑戦者・機動性」と定義致しました。

【2021年度取り組み】

以上が、昨年度の振り返りについてのご説明となります。

引き続き、2017年からスタートしました中期経営計画の柱に沿って、2021年度の主な取り組みについてご説明致します。

【商品の競争力】

最初に、商品の競争力でございます。

今年度は、LCV各車のさらなる燃費向上、排出ガスのクリーン化を予定しており、計画通り開発を進め、環境に優しい車造りを通して社会に貢献してまいります。

続いて、当社のグループ会社であるオートワークス京都についてでございます。これまでマイクロバスのシビリアンとトラックのアトラスを量産しておりましたが、2021年6月をもって車両の生産を終了し、今後は特装事業に注力することで事業の拡大に努めてまいります。

【工場の競争力】

続いて、工場の競争力についてご説明致します。

まず、品質に関するトピックスです。

2020年度の、日産圏国内市場初期品質ランキングにおきまして、当社のADとバネットが、同スコアでランキング1位を獲得致しました。例年、当社の製品はトップレベルを維持し続けております。今年度も引き続き、日産圏トップレベルを維持できるよう取り組んでまいります。

さらに、湘南、日産車体九州ともに、品質を中心に置いた上で、固定費、変動費の適正化、および設備総合効率の向上に継続して取り組んでまいります。工場の品質・コスト・スピードの競争力強化を目指し、グローバル市場からのご要望に対しまして柔軟に対応してまいります。

【技術・技能の競争力】

続いて、技術・技能の競争力についてご説明致します。

こちらは、今年度取り組む主な技術テーマと、今後、当社が独自技術として取り組む年度

の課題登録状況を示しております。

更なる先進安全技術のL C V車種適合や、車外騒音規制など新法規対応の技術開発に取り組み、ひとつひとつ着実に将来の新型車に向け、技術を蓄積してまいります。

【すべての活動を支える基盤】

最後に、すべての活動を支える基盤についてご説明致します。

当社では、ライフステージに応じたワークライフバランスの適正化を実現し、働く人すべてが、その能力を十分に発揮できるよう、継続した活動を推進しております。また、今年度は、障がい者雇用拡大のため、軽作業チーム「サンシャイン」を立ち上げます。

今後も多様性のある人材の雇用を進め、誰もが働きやすい職場の実現を進めてまいります。

また、新型コロナウイルスの感染防止対策の一つである在宅勤務につきましては、現在までに平均で50%を超える実施率となっており、更に継続・拡大してまいります。利用上限時間の緩和等、在宅勤務を実施する上での新たな課題にも引き続き対応してまいります。また、本取り組みを新型コロナウイルス収束後も継続し、従業員の働き方改革に繋げていきたいと考えております。

さて、当社は、社会貢献の一環として工場見学を行い、社会科見学の小学生を受け入れてまいりました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、従来の工場見学の実施が難しくなっていることから、新しい工場見学の形としてオンライン工場見学と出前授業を開始致しました。

小学5年生の社会科授業「日本のクルマ工業」の履修目的に合わせ、手づくり教材で車ができるまでの内容を配信したり、生徒たちの質問にも答えるなど、相互のやり取りも行いました。すでに100校以上の参加をいただき、実際に工場見学をしているようだ、と好評でございます。今年度もオンライン工場見学を継続し、地域、社会に貢献してまいります。

対処すべき課題についてのご説明は、以上となります。

以上、事業報告の内容、連結計算書類の内容につきまして、ご報告を致しました。

【4. 2021年度の業績見込み】

ここで、2021年度の、当社の業績見込みにつきまして、ご説明をさせていただきます。

まず、当社の売上高は、4千126億円を見込んでおります。

また、営業利益、経常利益は、それぞれ、78億円、84億円を見込んでおり、親会社株主に帰属する、当期純利益は、52億円を見込んでおります。

以上が、2021年度の業績見込みでございます。

【5. 配当について】

なお、配当につきましては、安定した配当を継続的に行う、という配当方針に基づき、当事業年度の年間配当金は、13円となります。

また、2021年度につきましても、同様に、年間13円を継続する予定でございます。

【6. 閉会の挨拶】

皆様におかれましては、従来にも増した、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。